



ご案内

2012 九州 PC カンファレンス in 宮崎大学

テーマ：新たな“神話”創成～『古事記』1300年の宮崎から

日時：2012年11月10日(土)13:00～11日(日)13:00

会場：宮崎大学 木花キャンパス(農学部棟)

PC カンファレンス 北海道 2012

テーマ：スマホ時代の「教育の情報化」

日時：2012年11月10日(土)9:30～11日(日)13:00

会場：札幌学院大学(北海道江別市文京台11番地)

詳細は下記サイトからご覧いただけます。

<http://www.ciec.or.jp>

ご報告

2012PC カンファレンス終了いたしました。

京都大学吉田キャンパスで8月4日(土)～6日(月)の3日間、全体テーマ「変革の教育，継続の教育」のもと132本の分科会発表(口頭発表103本，ポスター発表29本)が行われました。多くの方々にご参加いただき、誠にありがとうございました。

CONTENTS

- | | | | | | | | |
|---|------------------------|---|----------------------------------|---|---|---|-----------|
| 1 | 2012PC カンファレンス
開催報告 | 2 | CIEC 研究会報告
第95回研究会
第96回研究会 | 3 | 研究会開催案内
2012九州PCC開催案内
PCC北海道2012開催案内
外国語教育研究部会第6回学習会 | 4 | CIEC 活動日誌 |
|---|------------------------|---|----------------------------------|---|---|---|-----------|

会員状況

◆ 個人会員 ◆

教員	651	大学職員	16
院生	65	学生	9
生協職員	64	企業	32
研究員	5	その他	49

◆ 団体会員 ◆

企業	28	生協	55
大学	1	高校	2
法人	2		

(2012年9月30日現在)

2012PC カンファレンス

【2012PC カンファレンス開催報告】

開催日時：2012年8月4日(土) 5日(日) 6日(月)
開催場所：京都大学 (〒606-8501 京都市左京区吉田本町)

開催テーマ：変革の教育，継続の教育

主催：全国大学生生活協同組合連合会／CIEC(コンピュータ利用教育学会)
後援：京都大学，文部科学省，経済産業省近畿経済産業局，京都府教育委員会，京都市教育委員会，NHK 京都放送局，KBS 京都，京都新聞社，大学コンソーシアム京都，IT コンソーシアム京都

1. 参加者数 836名

小中高教員，大学教職員，大学生協職員，学生，企業やNPOなど幅広い分野からの参加者を得て，交流を深めることができました。

2. 各企画報告

■8月4日(土)

【全体会】

主催者挨拶：実行委員長 美濃 導彦 京都大学情報環境機構長
ご祝辞：古川 元久 科学技術政策担当大臣
来賓ご挨拶：小林 利典 経済産業省近畿経済産業局長
主催者挨拶及び趣旨説明：妹尾 堅一郎 CIEC 会長

【基調講演 1】

オープン・エデュケーションが変える日本の大学教育
飯吉 透 京都大学高等
教育研究開発推進センタ
ー 教授



【基調講演 2】

学びに関連して見えてくる大学生の現状と成長支援
溝上 慎一 京都大学高等教
育研究開発推進センター 准教授

【シンポジウム 1】

すぐそこまできた「未来の教室」を創造する
-CIEC15周年記念国際シンポジウム

パネリスト

David Long Account Executive Lenovo Australia & New Zealand
Yoko Nishimura-Parke NSW 州政府 情報教育担当
(オーストラリア NSW Education & Communities)
加藤 悦雄 北海道石狩市立紅南小学校
(フューチャースクール実践校)
林 向達 徳島文理大学短期大学部
(フューチャースクール有識者グループ)
モデレータ 森 夏節 酪農学園大学
助言者 武沢 護 早稲田大学高等学院/
早稲田大学大学院

【シンポジウム 2】

「教育イノベーションとしてのゲーム：新しい教育哲学から実践までを考える」

パネリスト 武山 政直 慶應義塾大学経済学部教授
藤本 徹 東京大学情報学環特任助教
サイトウ・アキヒロ 立命館大学映像学部教授
一木 裕佳 (株)バンダイナムコゲームス
新規事業部ゼネラルマネージャー
モデレータ 妹尾 堅一郎 CIEC 会長

【IT フェアインデキシング】

IT フェア出展企業にブースの展示内容をステージ上で1分間アピールしていただいた。

【イブニングトーク】

(1) 学校防災と被災後の学校教育の課題について考えよう

(2) SNS 時代の学生サポートのあり方について

(3) ビジネスシミュレーションゲームを使った意思決定プロセストレーニング

(4) これからの「発表」の話をしよう

【自主企画型ワークショップ】

(1) あなたの思考特性と行動特性を授業・講義で活かそう

(2) 教育のための TOC の1つ「クラウド」を体験しよう！

(3) Learning 3.0

(4) モバイルゲーム型学習ソフトを利用した授業体験と利用方法検討ワークショップ

■8月5日(日)

【IT フェア】 57社 67ブースの出展

【分科会 口頭発表・ポスターセッション】 132本発表(口頭 103本，ポスター29本)

【レセプション】

司会 喜多 一 京都大学
歓迎の挨拶 川添 信介 京都大学(京都大学生協理事長)
主催者挨拶 庄司 興吉 全国大学生協連会長理事
乾杯挨拶 美濃導彦 PCC 実行委員長
<歓談>
京都大学生協挨拶 中森 一朗 京都大学生協専務理事
次期開催挨拶 福島 裕記 全国大学生協連専務理事
閉会挨拶 妹尾 堅一郎 CIEC 会長

■8月6日(月)

【セミナー 1】

「教育実践から視る未来—授業で何を学ばせたいか—

【セミナー 2】

CIEC 会誌『コンピュータ&エデュケーション』をより良くするために—歓迎される原稿とは—

【セミナー 3】

進んできた大学における教育の情報化と整備された学びの環境

【セミナー 4】

京都大学オープンコースウェアを活用したくなるわけ

■プレカンファレンス 8月4日(土)

携帯端末およびタブレット PC 向け電子教材の自作ツール
YOUSEE 体験学習

講師 芦屋 充 CSE
株式会社(YOUSEE デジタルブック+デジタル資産管理システムの営業，技術サポート，機能開発企画を担当)



CIEC 研究会報告

【第95回研究会報告】

テーマ：「未来の教室環境を考える」

日時：2012年6月16日（土）13:00-16:30

会場：内田洋行 ユビキタス協創広場 CANVAS 7階
（東京都中央区新川 2-4-7）

参加者：32名

小中高等学校の「未来の教室」について検討するための本年度最初の研究会として、小中高部会が企画した。この研究会では、教室のインフラ整備やそれを使いこなすためのヒントを中心に、内田洋行の設置した未来の教室を想定した施設で、講義と実習の形式で、研究会を開催した。

■フューチャークラスルーム機能紹介

はじめに、内田洋行教育総合研究所の青木栄太氏により会場となるフューチャークラスルームの機能やコンセプトについて紹介があった。この会場は、これからの社会で求められる3つの能力と12の能力要素をもとに考えられ、これからの学習環境を構築したとのことであった。会場は、日本の教室サイズの中に可変式の家具を導入し、自由なレイアウトを作れるだけでなく、すべての壁面を、自由に電子黒板として活用することができるように設計されていた。この壁面は電子黒板として機能することはもちろんのこと、すべてがマグネットがつくようになっており、さまざまな教材提示の方法が考えることができる。



また自動車やドラえもんを実物大に投影し、その大きさを実際に計測できるような工夫もソフトウェアにより実現されていた。すべてのLED照明やプロジェクタはiPadのコントロールで制御されており、画面内容の変更やズームなどもiPad上で簡単に操作できる。また各壁面のプロジェクタは、長短焦

点プロジェクタが配置されており、授業の邪魔にならないような工夫もなされていた。小学校の先生や児童の目線で作られた、新しいコンセプトの教室でどのような授業が展開できるのか、参加者の関心も高まった。

■模擬授業

続いて、内田洋行ソリューション&サービスビジネス部の池田記子氏より、デモンストレーションと模擬授業が行われた。簡単に電子黒板の設置場所を変更するために、壁面にシ



ールのようなマグネットを貼り付けるだけで、電子黒板の設定が完了するという興味深いデモンストレーションが行われた。

また、模擬授業では、各グループに配付されたPCまたはタブレットPCによって、「3×3に配置された点を4本の繋がった直線で通過する問題」、「直線を3本にしたときの問題」、算数オリンピックの問題として、計算問題と図形の面積の問題が出題され、参加者は、生徒になったかのように一生懸命にとき、グループ発表をしていた。この際、授業支援システムで、各グループの進行状況を壁面でモニターし、各タブレットの画面を壁面に大きく映し出すなどの展開方法をデモンストレーションした。

■教室機能の体験、他モデルルーム見学

他のフロアでの教室機能の体験やモデルルームの見学を行った。

ここでは、電子教科書のネットを通じての配信、可動式の天吊りプロジェクタ、教材にICタグを付けて、調べ学習や体験学習を行う試みなどを体験した。

■ディスカッション

最後にディスカッションとして、参加者の感想を聞くとともに、これからの未来に教室に求められるデバイスについて議論を深めた。

参加者からは、実物大に投影したり、床に投影したり、先生の画面だけでなく、生徒個々の画面を映すなどのプロジェクタの新しい発想を感じたとの意見があった。生徒が考えた経過をそのまま映し出すことに関しては、前に出たがらない生徒の意見も取り込める工夫となり得るとの意見もあった。

また、参加者からは教材をクラウドでの共有する、授業の工夫について、さまざまなアイデアが出された。無線LANが普及しすぎて、干渉する問題やコンテンツや課題の著作権、学生の著作権に関する意識などに関しても、意見が出された。

さらに、今できるインフラ整備として、あまりお金を掛けないで行える工夫やどんな学校でも行える実践などに関してもさまざまな意見が出され、多くのアイデアを得ることができた研究会であった。

文責：大橋真也（千葉県立船橋啓明高等学校）

【第96回研究会報告】

テーマ：小中高における新しい学びのかたち

日時：2012年7月8日（日）13:00～16:40

会場：関西大学中等部高等部 高槻ミュージックキャンパス
マルチメディア教室

参加者：17名

■開催趣旨説明

（千葉県立船橋啓明高等学校 大橋 真也 先生）

今回の研究会は小中高部会と外国語教育研究部会との共催。小中高部会では京都大学で行われる2012PCカンファレンスでのセミナー1を担当する。第95回研究会では「未来の教室環境を考える」をテーマに、東京の内田洋行のユビキタス協創広場 CANVAS を会場に開催した。実際の設備やソフトウェアなどのインフラ面に関する未来の教室について考えてきた。今回は設備面と授業設計を繋ぐものとして ICT にどのような活用があるのか追求してみたい。さらに PC カンファレンスでは授業バックアップする ICT の効果的な活用法を小中高の教育を中心に考えてみたい。



■開会挨拶（立命館大学 野澤 和典 先生）

外国語教育研究部会では2012PCカンファレンスのプレカンファレンスを担当する。「携帯端末およびタブレットPC向け電子教材の自作ツール YOUSEE 体験学習」をテーマに韓国での事例紹介とワークショップを行う予定。また、8月5日のA分科会（語学教育）では6つのプレゼンテーションがある。各種レポートや今後の活動についてのお知らせは、外国語教育研究部会のWikiサイトに掲載している。



■講演 授業の新しい組み立て方 -「逆向き設計」による授業展開-

大阪市教育センター 高見 砂千 先生

最初に授業の新しい組み立て方-逆向き設計による授業展開-の話をした。ICTをどのように逆向き設計の中で活用していけるかについては最後にまとめた。

内容は三つに分けてある。最初に逆向き設計の概要について、次に今まで取り組んできた三つの授業実践事例の紹介、最後に教員にとっての効果、有用性についてPAC分析を通して分析した結果について述べる。

逆向き設計はカリキュラム設計論なので、皆が共有化出来るよう理論化した所に一番大きな意義がある。逆向き設計（Backward Design）は、アメリカのウィギンズとマクタイによる理解をもたらすカリキュラムの略称。活用する力を育成するカリキュラム設計論として、次の学習指導要領に評価の観点から活用できないかワーキングチームで検討されている。もともとは1980年代のアメリカで学校の説明責任が強く求められる中、標準テストを重視するあまりにテストの点数を上げるために教える傾向



が強まった。このような背景の中、子供達は本当に学んでいると言えるのかとの疑問や、もっと多様な評価方法が必要であるということから真正の評価論が興隆してきた。

「逆向き」には2つの意味がある。指導計画を作成する際の手順上の「逆向き」と、深い理解の段階に絞り込んだ中核目標からさかのぼる「逆向き」である。手順上の「逆向き」とは、求められている結果（目標）を明確（到達目標の明示）にして、評価方法の決定し、それから指導方法・内容を検討するという流れの事。深い理解から遡る「逆向き」とは、「逆向き設計」が捉える「知」の構造の事である。事実に基づく知識、個別のスキル等は筆記テストや実技テストによって評価が可能だが、原理と一般化に関してはパフォーマンス課題による評価が必要となる。

英文法における「受動態」の指導を例にすると、なぜ受動態で表現するのかということについて理解し、場面に応じて受動態を用いることができることが必要。中学校の英語教員が3年間を見通して指導をするために、「英語が使える15歳」をめざすルーブリック（中学校3年間の4技能評価指標一覧表）を作成した。中学校3年間で生徒に付けたい力を具体的に示して、3年間の指導計画の中の単元の位置づけを確認する。

続いて「逆向き設計」授業実践事例として、まとめた文章を書くという3つの事例を紹介する。1つ目は創造的なアイデアを読み手に発信する事例として、第2学年を対象とした「環境保全に貢献する発明品をピーアール」。2つ目は読み手の興味を引き付けながら事実を伝える事例として第3学年を対象とした「時事問題を報じる英字新聞に挑戦」。3つ目はまとめた紹介文を書く事例として、第3学年を対象とした「オリジナルディクショナリーをALTの先生にプレゼント」。いずれの事例でも、生徒からは「逆向き設計」の手法に関して肯定的に捉えている生徒が多く、「書くこと」に対する意欲の向上が見られた。

逆向き設計のワークショップを実施した際の教員の感想から、その有効性は理解しつつも困難さを感じている実態も明らかになった。アンケート結果では肯定的な回答ばかりだったが、若手教員の採用が多く日々の授業で大変だという教員に対して、逆向き設計がどのように有効かについて、PAC分析を用いて見てみた。PACとは、個人別態度構造（Personal Attitude Construct）の略称。内藤哲雄先生が編み出された方法。PAC分析とは「個人ごとに態度・イメージ構造を測定する」方法。PAC分析によって析出される構造は、共通要素と個人に特有な要素の両方から構成されている。PAC分析により、指導計画の作成に関して表出した教員の意識を捉えることを通して、「逆向き設計」の有用性を検討することを目的とした。

結果、最終到達目標と評価を明確に意識化するためには逆向き設計（最終到達目標→評価→指導と、めざす結果からさかのぼって授業を設計する構造）が有効であると言える。一方、具体的に取り組むためには難しさを感じている教員や、簡単な手引きがあったらわかりやすいのにと考えている教員も多かった。そこで初めて取り組む実践者であっても、「逆向き設計」の手順に従って授業作りができるように配慮した「逆向き設計シート」を開発した。シートをみの共有の難しさを感じる。教職経験年数が少ない教員では、指導計画の作成時に「単元の最終到達目標を明確にすること」の重要度が低いか、または表出しない傾向がみられる。授業デザイン力向上のために、特に若手教員にとっての「逆向き設計」の有用性を指摘できる。今後はさらに実践事例を増やし、汎用性の検証が必要。

大阪市教育センターのWebサイトは整備されていない面も多い。他の自治体の教育センター等のサイトに比べ分かりづらい。大阪市ではタブレットPC導入して授業改善を図るとい

う話題もあるが、ICT活用の面では課題が多い。韓国では教員のポータルサイトを充実させて教員間の情報共有を図る取り組みや、若手教員の支援にICTを活用した取り組みが報告されている。

逆向き設計の例示が多ければ普及が進むのではないかと。ルーブリックの作成にもアメリカのRubiStar

(<http://rubistar.4teacher.org/>)のようなポータルサイトの充実や共有、活用が重要である。逆向き設計で授業設計した時の中核はコミュニケーションの力を向上させることでもある。小中連携や海外の学校との交流にもDVDを作成して交換する等ICTを活用している。手続き上の問題も含め、更なるICTの充実が必要。本当のコミュニケーションにICTを活かして取り組んで行きたいと思う。

■講演 ICTを利用した中学校英語授業の実践について

大阪教育大学附属平野中学校 富藤 賢治 先生

英語を担当してきた中で、新出文法事項を説明する際に、黒板とチョークを使って使用することから始まった。その後カードを貼ったり、模造紙を貼ったりモニターやOHPも活用してみたが、生徒はただ聞くだけの授業に飽きるし、教師も毎回の準備や教材の置き場に困ることになったりしていた。更に音読、ペア・グループワーク、ロールプレイを行って見たがやはり飽きが生じた。一方で、生徒が教室外で英語が使えるようになるのか疑問が生じた。



昨年アメリカの中学校へ視察に行った。どの教室にもスマートボードが設置され、朝の会でも生徒が活用していることに感銘を受けた。また、韓国の中学校へ視察した際も同様であった。

5年前に教室内プロジェクターと有線LANが整備された。そこで、教室内のICT活用の視点として、誰が使うのか、どれだけ使えるのか、何をを使うのか、いつ使うのか、どう使い、なぜ使うのかについて検討を行った。先生方との話し合いの中で、グローバルネットワーク社会の中を自律して生きていく子を育てたいということになった。さらに、さまざまな人たちとの関わりの中で自ら考え、表現し、自信を持ってやり取りできるようにしたいとも考えた。ICTがないと何もできないと言うのでは意味が無いが、従来形式の授業をさらに活性化させたいと考えて少しずつ始めた。

ただ当初はみんな素人だったため、「とにかく何かやってみよう」、「どんなことができるか」を手探りで使い始めた。PCを教室に持ち込んでCD、動画を再生するなど教材提示の道具として使ったところ生徒も強い関心を示した。具体的にはパワーポイントのアニメーションを示してクイズ形式で興味を引き付けることができた。さらにデジカメで撮影した写真を教材として活用した。

パワーポイントのアニメーション効果にサウンドを付加して活用したり、英文の一部を隠して提示したりするなどの工夫をした。英文を消していく提示方法も効果的だった。また、クイズ番組形式でも取り組ませた。成果としては生徒の興味を引き付けられる、授業のテンポアップ、教員同士での教材の再利用や共用化、アーカイブ化進んだことが上げられる。一方課題としては、授業展開が教材に縛られ、教員の自己満足に陥る危険性もあった。あくまでも授業を活性化するアイテムの一つであることがわかった。

教室の内と外をつなぐ取り組みも、Eメール交流、ビデオ交流、ビデオチャット交流、学校交流へと発展して行った。テディベアプロジェクト(TDP)を通じて台湾とルーマニアと

の交流を行った。従来行っていた自己紹介活動も相手があることで学びが活性化した。

Preziでの学校共同サイトを立ち上げたり、学校間をつなぐサイトMy school 2 school(無料)を利用したりもした。また、スカイプを利用したリアルタイムの直接交流も試みたが、処理速度、通信速度の問題や時差の問題もあった。

その後ビデオによりさまざまな交流の様子や活用事例の紹介があった。

■教室設備見学

今回の会場を提供して下さった、関西大学附属中等部・高等部の江守恒明先生の案内で校舎、施設・設備を見学した。高槻ミューズキャンパスは、JR京都線「高槻」駅から徒歩で7分(歩行者専用通路を利用できる)の場所にある。セキュリティも厳重で、入構時に北門(正門)で手続きをした上、13階建ての校舎へ入る時もロックを解除してもらう必要があった。



見学箇所は、高等部の普通教室、中講義室、コンピュータ教室、生物教室、中等部・高等部ライブラリー等。全ての教室にIWBと教材提示装置とMacが設置されており、必要に応じていつでもどこでもICTを活用できる環境が整っていたことが印象的だった。また、会場となったマルチメディア教室もコンピュータ教室共に、様々な授業形態にフレキシブルに対応できる作りになっており、実際多様な使われ方をされているという。正に未来の教室を具現化していた。



全ての教室にホワイトボードとIWBが設置されている



教卓にはiMacと教材提示装置(書画カメラ)が完備



壁側にiMacが設置されている広いコンピュータ教室



コンピュータ教室にはLEGOマインドストームが30セット以上



図書館にも複数のiMacブースを設置

■意見交換 教室の設備と ICT の活用について討論
モデレータ：関西大学附属中部・高等部 江守 恒明 先生

施設設備は見ていただいた通り。高槻ミュージックキャンパスは2009年にできた。開設準備から携わった。この教室も様々な授業形態に対応できるようにした。机やイスもフレキシブルにレイアウトできるようにしている。

全てのパソコンをMacにした理由は、子供達が何も考えずに操作できるから。情報の授業でソフトウェアの操作方法は教えない。Macでは同じ操作で様々なソフトが使える。生徒は容易に使いこなしている。一番の問題は教員。教員向けにはWindowsも利用できるようにしている。感覚的だがMacを使い始めていいなと言う人は創造的な仕事ができる。Windowsはワーク。ルーティンの仕事をするのには良いのだが、教育にはどうか。



iPadを生徒一人一人に持たせたいが現在は検討中。現状では小学校の方が電子教材は整っている。

高校の4クラスで「情報」を二人で担当している。また、プロジェクト型の授業（中部部の「考える科」）を中部部も担当している。

その後、高等部での論文（1万2千字程度）を書かせる授業の取り組みと、中部部での問題解決力育成を図るためのカリキュラム案の紹介があった。

大阪市教育センター 高見 砂千 先生

国際交流をしたくてもなかなか簡便な方法が見つからなくて困っている。動画のやり取りがやりやすそうだが、コーディネートしてくれる団体の紹介を含めて良いアイデアがあれば紹介してもらいたい。

北海道札幌旭丘高等学校 高瀬 敏樹 先生

アメリカとの姉妹校交流はリアルタイムのテレビ会議システムを利用して始まったが、時差の関係があり頻繁には行えなかった。現在はビデオでの交流を中心に行っている。ビデオ交流は授業時間内でも行いやすい。

大阪教育大学 吉田 晴世 先生

フェイスブックが有効。そのグループだけが使えるフェイスブックが立ち上げられる。ログインが必要な環境の中で活用している。学部生がアメリカのノースキャロライナやデューク大学との間で利用している。

関西大学附属中部・高等部 江守 恒明 先生

まだまだ出来ていない。スカイプを利用している。ドイツ、韓国からの中学生が来校する予定。直接交流が中心。事前のやり取りはメール中心。台湾の生徒は大勢で見学に来る。なかなかネットワーク上では行っていない。

京都女子高等学校 空閑 知子 先生

ウィステリア科では中3でオーストラリア、高3でアメリカへ連れて行く。名前のやり取りだけで後は生徒間でフェイスブック上での交流が盛んに行われている。きっかけだけを作ってやって後は子供達に任せる方が早いのでは。

京都女子高等学校・京都女子大学 平田 義隆 先生

アメリカでは個人情報なかなか教えてくれないが、名前のやり取りでフェイスブック上の交流が始まる。メールアドレスを教えてくれないこともある。生徒間はメッセージではなくウォールでの書き込みでやり取りしているため、交流の様子がよく見える。

大阪教育大学附属平野中学校 富藤 賢治 先生

フェイスブックの利用に関しては、利用度合いについて生徒間の個人差が大きい。

神戸国際大学附属高等学校 大木 誠一 先生

デジタルポートフォリオの紹介をお願いしたい。

江守先生から授業の様子を撮影したビデオの紹介の後、Oracle社のOSL(Oracle Student Learning)を活用したeポートフォリオの紹介とデモンストレーションが行われた。このシステムはもともとオーストラリアの西オーストラリア州とビクトリア州で採択されているとのこと。日本語化して日本で利用しているのは関西大学中部・高等部だけだそう。

最後に、iBooks Authorで作成したカイコの解剖に関する教材の紹介で締めくくられた。



文責：高瀬 敏樹（北海道札幌旭丘高等学校）

九州 PCC 開催案内

<2012 九州 PC カンファレンス in 宮崎大学>

テーマ：新たな“神話”創成～『古事記』1300年の宮崎から
日 時：2012年11月10日(土)13時～11日(日)13時
会 場：宮崎大学 木花キャンパス(農学部棟)

主な企画

11月10日(土)

- ◆基調講演：“神話”と現代のICTの世界をつなぐ(仮)
- ◆シンポジウム：ICTを使った事例報告
- ◆特別報告：学生の学びと成長の取り組み事例
宮崎大学チャレンジプログラムの取組から
- ・メーカーブース 20社程度を予定
- ・懇親会

11月11日(日)

- ◆分科会(研究や実践事例の発表会)
- 分科会での発表を希望される方は、10月26日(金)締切

◇ 分科会発表受付中 (10月26日締切)

<https://pro.form-mailer.jp/fms/dd7b50cc32920>

◇ 参加申し込み受付中 (11月2日締切)

<https://pro.form-mailer.jp/fms/b0920f9232182>

【お問い合わせ】

〒889-2155 宮崎市学園木花台西 1-1
宮崎大学内 宮崎大学生協同組合
2012九州PCカンファレンス in 宮崎大学実行委員会事務局
TEL 0985-58-0612 FAX 0985-55-3020

PCC 北海道開催案内

<PC カンファレンス北海道 2012>

テーマ：スマホ時代の「教育の情報化」
日 時：2012年11月10日(土)9:30～11日(日)13:00
会 場：札幌学院大学(北海道江別市文京台 11 番地)

主な企画

◆分科会発表

PCカンファレンス北海道では、コンピュータや情報機器を利用した教育や実践について、アイデア紹介や事例報告が行われます。また分科会発表を募集していますので、どうぞふるってご応募ください。今年も学生の発表に対してプレゼンテーションスキル賞が授与されます。

- ・申込締切：2012年10月16日(火)
- ・発表論文原稿締切：2012年10月23日(火)

◆高校生プレゼン

CIEC高校生プレゼンは教科「情報」の授業におけるPCを用いたプレゼンテーション教育の成果を発表する場を持つことにより、高校生のみなさんの勉学の動機付けや情報教育のさらなる充実に向けての高大教員間の連携を目指したものです。発表は口頭でのプレゼンのほかに、ムービーによるプレゼンを受け付けています。高校が遠方にある等の事情で、当日の参加が出来ない場合、各高校において撮影したプレゼンのムービーを送っていただき、会場で公開します。

- ・参加費：無料
- ・参加申込締切：10月16日(火)
- ・ムービー提出締切：11月5日(月)

◆特別講演

中山五輪男氏(ソフトバンクモバイル)
「教育分野へのiPhone, iPadの導入事例と課題、今後の展望」
(仮題)

◆シンポジウム

『教育の情報化「いま何ができるのか」』(仮題)

◆ITフェアプレゼン

【お問い合わせ】

〒069-8555 江別市文京台 11 番地 札幌学院大学
PCカンファレンス北海道 2012
事務局・実行委員長 皆川雅章
E-mail: minagawa@sgu.ac.jp
TEL: 011-386-8111 (代)

学習会開催案内

CIEC 活動日誌

<外国語教育研究部会 第6回学習会開催案内>

テーマ：タブレット端末時代の外国語教育パート2

日時：2012年11月3日(土) 13:00~17:05

会場：大学生協杉並会館 地下会議室

(〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22)

(<http://www.univcoop.or.jp/about/map.html>)

【開催趣旨】

Apple社のiPhoneやiPadが販売されて以来、これまでの携帯端末がスマートフォン、タブレット端末へとブームが巻き起こり、次々と各社が最新のスマートフォンやタブレット端末を発売した。従来のパソコンによるeラーニングでは、時間と空間の制御を受けない学習が可能と謳われたものの、実際にはパソコンという大きな機械の前に座り、長い時間をかけて起動しなくてはならなかった。iPhoneに代表されるスマートフォン(多機能携帯端末)では数多くの教育用アプリも提供され、モバイル・ラーニングが活用され始めたが、電子教材を扱うのにはスマートフォンでは画面が小さいきらいがある。タブレット端末はその点で、eラーニングの利点とモバイル・ラーニングの利点を併せ持った上で、画面が格段に見やすく、入力がしやすい。各方面で本格的に利用されつつあり、教育現場でもタブレット端末を用いた教材開発が進んできている。外国語教育にも応用できることから、既に様々な研究や実践に取り組んできている先人たちがいる。タブレット端末向けアプリケーション・ソフトウェアの紹介や人気のあるPodcastingの紹介などを参加者と共有し合うポスター・プレゼンテーション・シェアリングを実施する。講師陣がライトニング・トークで簡単にプレゼン内容を紹介した後、3回に分けてプレゼンをし、参加者は各ポスターを回り、質疑応答する。最後に全体会として討論をするスタイルで情報交換をする。

【話題提供者】(五十音順)

岩居 弘樹 (大阪大学)

上村 隆一 (グローバル・コミュニケーション・クラウドサービス(株))

清原 文代 (大阪府立大学)

田邊 鉄 (北海道大学)

野澤 和典 (立命館大学)

【プログラム】

- 13:00 - 13:10 司会挨拶とスケジュール説明
- 13:10 - 14:30 発表者全員によるライトニング・トーク
- 14:30 - 14:50 第1回プレゼンテーション
- 14:50 - 15:10 小休憩
- 15:10 - 15:30 第2回プレゼンテーション
- 15:30 - 16:00 休憩&最新機器展示会
- 16:00 - 16:20 第3回プレゼンテーション
- 16:20 - 17:00 全体討論会
- 17:00 - 17:05 閉会挨拶

■参加費 CIEC会員は無料、その他の方は500円
(どなたでもご参加いただけます)

■お申し込み・お問い合わせ

CIEC事務局 e-mail: sanka@ciec.or.jp

TEL/FAX 03-5307-1195/03-5307-1180

2012.6	3日	2011年度第3回運営委員会
	5火	CIEC役員立候補締切
	9土	PCC北海道準備会
	15金	投票受付開始
	16土	CIEC第95回研究会 (東京ユビキタス協創広場 CANVAS)
	17日	小中高部会世話人会
	30土	PCC北海道2012第1回実行委員会
2012.7	2月	投票締切
	4水	生協職員部会世話人会
	5木	開票
	8日	CIEC第96回研究会 (関西大学中等部高等部)
2012.8	3金	2012PCカンファレンス実行委員会 CIEC理事会
	4土	2012PCカンファレンス(京都大学) 会誌編集委員会 小中高部会世話人会
	5日	2012PCカンファレンス(京都大学) CIEC定例総会
	6月	2012PCカンファレンス(京都大学)
	24日	生協職員部会臨時世話人会
2012.9	17月	三役会議
	30日	会誌編集委員会